

【心理学研究科心理学専攻博士後期（英語）出題意図】

【出題意図】

1

博士後期課程での研究を遂行する上で必要とみなす、テキストを通読して内容把握する能力を評価する問題である。

近年臨床心理学においてその意義が注目されている、心理療法の多面的アプローチに関する問題。セラピーの5つの方法の内の「会話」に関する部分を取り上げている。多面的アプローチに関して基本的知識があれば文意の把握と内容理解は容易なものとした。

「会話」が、共感的反射、ソクラテス法、隠喩ならびに解釈という方略によって、探求や内政や意味づけ、学習のための方法であり、いずれも良い悪いという境界があるわけではなく、時と場合に応じて援助的であったりなかったりするもの、という文意が読み取れていること。

2

心理学研究科博士後期課程で研究し博士学位請求論文を執筆するために必要な英文読解力を有しているか否かを測ることを目的とし、併せて、学史を踏まえた心理学の基礎的な知識を有していれば読解の支援となるよう意図した。解答にあたっては、まず比較的少量の全文を概観し、4つの小問が相互に補完し合うかたちで原著者の考えの要点を述べていることを理解できれば、各小問の文意の把握は容易となる。出典を明記しており、英文自体は総量が多くなく複雑な構文や難解な用語を含まないので、解答を示すことはしない。